

清水町総合計画審議会 会議録（要約）

日時 令和3年7月14日 19時00分～20時44分

場所 清水町役場庁舎2階 庁議室

【出席者】

委員：丸山良三、残間一憲、氷見隆雄、宮澤真二、下坂吉彦、上谷明美
寺内麻紀、伊藤亜砂子

（欠席：和田聡明、小笠原孝司、澁谷耕大、高橋利幸、梶深雪、大東孔美、林緑）

アドバイザー：滝下麻耶、丹羽恭太

事務局：企画課長（鈴木聡）、企画課長補佐兼企画統計係長（川口二郎）
企画統計係主事（青砥大将）、企画統計係主事（木村翔）、
企画統計係主事（小森那津未）

傍聴者 0名

記者 0名

1 開会

2 町長あいさつ

本日の清水町総合計画審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の総合計画審議会は、「人口ビジョン・総合戦略」における昨年度の実施内容と効果の検証に対する意見を賜りたく開催するものです。検証にあたっては、官公庁・報道関係者の方をアドバイザーとしてお迎えし、ご多用の中ご参加いただきましたことに改めてお礼を申し上げます。

「人口ビジョン・総合戦略」の策定にあたっては、町民・議会・行政がともに関わりながら、また、外部有識者の方の意見も取り入れながら策定されたものであり、人口減少問題への対策となっており重要な計画だと認識しています。

この後、事務局から説明があると思いますが、清水町をはじめ十勝は他地域よりも人口減少の影響は小さい地域ではありますが、それに油断することなく、結婚少子化対策から子育て支援、住宅政策など更に進めていかなければならないと考えております。

委員の皆さんからは、率直なご意見を頂戴したいと思っておりますので、ご審議のほどよろしくお願い致します。

3. 委員及びアドバイザー、事務局紹介

企画課長より口頭にて紹介。

5. 会長あいさつ

何かとお忙しい中、清水町総合計画審議会にお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。大事な審議会ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

第6期総合計画も無事に完成し、概要版が全戸に送付されました。今回は人口に関するのですが、全てにつながってくると思います。

今、町長からも様々な思いを聞かせていただきました。町民の意見を行政に反映して、運営にあたっていただきたいと思います。

本日の審議会を円滑に進めて参りたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6. 諮問

(阿部町長)

清水町人口ビジョン・総合戦略における令和2年度実施事業評価及び第1期の総括について、貴審議会の意見を求めます。

(町長から会長へ諮問書を手渡し)

7. 協議事項

(丸山会長)

協議事項に入ります。

協議事項(1)清水町人口ビジョン・総合戦略における令和2年度実施事業評価について、①令和2年度人口動態について、②令和2年度実施事業評価検証について、(2)第1期清水町人口ビジョン・総合戦略(平成27～令和2年度)の総括について事務局より説明をお願いします。

【川口補佐より一括説明】

(丸山会長)

只今説明を受けた人口動態や事業評価検証、人口ビジョン・総合戦略の総括について委員の皆さんよりご意見やご質問、また、これに限らずどのようなことでも構いませんので、(3)の意見交換を含めてご発言いただければと思います。

(残間委員)

毎回同じことを聞いているが、ABC評価が非常にわかりにくい。A評価の目標達成は理解できるが、目標達成=事業がうまくいったのか、目標設定値が低かったのか読み取れない。また1年に1回の評価ではなく、半年や3か月に1回評価を行い、途中経過を明確に知れた

いと思う。令和3年度以降は細かい期間で評価できる体制を構築していただきたい。人口動態について、注目すべきは外国人ではないかと思う。商工会でも検討してみようと思うが、タイやベトナムなど馴染みのない文化圏からくる外国人が増えてきているため、これらと文化的な交流事業ができないか。入口として食文化を取り扱おうと良いと思う。例えば飲食店組合と連携した異文化交流事業を町と農協なども含めて、何か形を作れないかと思う。外国人労働者が増えることで、より町の経済が良い流れで回るような努力をしていきたい。

(鈴木課長)

評価体制については、1年の中の途中経過が大事になると思う。今回は第1期目の総括として、KPIを基準にABC評価をさせていただいている。今年度から第2期目が始まっているため、細かい評価を取り入れる取組みが必要である。また、その時々合ったKPIの見直しも考えなければならない。外国人との異文化交流については、地域で馴染める取組みを国でも考えていると聞いている。これを活用しながら地域に馴染める方策を考えていかなければならない。受け入れ側も相手の国への理解が必要であるため、異文化を学ぶ場も作っていく必要があると感じている。

(氷見委員)

人口減少に対する対策として、農協としては職員の新規採用などを行っている。しかし住まいがないという悩みがある。町として公営住宅みたいなものを整備していただきたい。また、雇用の場を増やす取組みを考えてほしいと思う。

(鈴木課長)

清水市街地については民間アパートの建設が多かったという経過もある。公営住宅については老朽化しており、今後の検討課題となっている。西都団地の改修後、全体の見直しをしていく予定である。喫緊においては、具体的な名案がないため、時間をかけて考えていきたいと思う。また町で宅地造成をしていくことも考えていきたい。雇用の場については難しい状況であるが、テレワーク等が普及してきている。光ファイバーの整備が町内全域で行われるため、都会との環境面の差は少なくなってきた。企業立地だけでなく、サテライトオフィス等を含めて雇用対策を考えていかなければならない。すぐに結果が出るものではないため、じっくり検討していきたいと思う。

(伊藤委員)

北星団地は空いている部屋がたくさんあると聞いている。公営住宅には入居の条件があり、なかなか入居できないと聞かすが、改善することはできないか。公営住宅を空き家にしておくというのはいかがなものか。

(鈴木課長)

北星団地については、浴室や給排水設備がない部屋もあり、これらの部屋には応募がない状況である。入居条件については所得制限があることや一定の所得がある場合は家賃が高くなってしまいうこともあり、民間に流れてしまっていると思う。設備の改善も考えているが、現在の入居者との公平性を考える必要もあり、活用方法について検討している状況である。

(寺内委員)

町中に空地空き家はたくさんある。先ほどの公営住宅の問題についても理解はできるが、解決することが一番手っ取り早いのではないかと感じる。住んでいる人に説明をして、理解を得るしかならないと思う。先々の苦情を考えるのではなく、まずはやってみるという腰の軽さも必要である。事業評価を見ると、高齢者が総合戦略に参加できていないのではないかと感じる。空き家空地は高齢者が持っている場合がほとんどである。手放すことや借りることができないか打診をしてはどうか。また人口減少対策を行っている現状を理解している人が少ないのではないかと感じる。資料を配布するだけではなく、機会を見つけて口頭で説明をしていくしかならないと思う。これがシニア人材の育成やコミュニティバスの利用などに繋がっていく。また高齢者だけでなく、外国人も情報を得る手段がないため、積極的に説明をするなどのサポートが必要ではないか。

(鈴木課長)

空き家空地についてはいかにマッチングをしていくかが課題である。情報源についても、それぞれの課で情報を持っていたため、情報を一元化し、情報提供していくための取組みを始めたところである。しかし、個人情報課題であり、所有者と接点を持つことが難しい。情報収集を行い、情報を提供していくことに力を入れていきたい。公営住宅について使えるものは使っていきたいと考えている。法律のしがらみもあるため、その中で対応をしていきたいと思う。外国人に関して、我々も勉強をして進めていきたい。

(滝下係長)

外国人や住宅、シニア、空き家空き家の問題は他の町でも話題に出ていると感じる。特効薬が見いだせないため、地道な情報提供が大事である。また官民が連携して地域課題を解決していくことを北海道でも盛んに行っていきたいと考えている。地元企業やソフトバンク、ヤフージャパンなどの大手企業も地域課題と一緒に解決していくことが企業の使命であると感じており、熱心に地域課題の解決に取り組んでいる。町の課題は住民が解決していくことが基本であるが、外からの視点を参考にしながら、地域が大企業の知恵や技術を利用していくということも解決策の一步になるのではないかと感じている。十勝全体で抱える共通課題については、役場とも協力しながら進めていきたいと考えている。

(丹羽支局長)

評価と住民の実感が全然合っていないと感じる。総合戦略は国から示されたひな型に則って作成するため、客観的な数値のみが評価の大部分となっていると思う。住民の満足度を重要視すべきと考えている。住みやすさ満足度が下がっているのが、気になる点である。満足度を高めるために、身近に楽しいものがあるだけで変わってくると思っているため。異文化交流は良い施策だと思う。清水は食のイベントもたくさんあるため、外国人にも参加をしてもらうことで、楽しいものになると思う。

(下坂委員)

コロナの関係もあって、昨年の出生数が減っていると思う。結婚対策等いろいろな施策に取り組んでいると思う。日本全国で下がっているため、すぐに解決することは難しいが、少しずつでも上向きになる取組みを続けていただければと思う。特色ある教育にも取り組まれているため、学校でも成果を上げられるようにしたい。教育を通して、転入等にもつながるため、学校でも努力をしていきたいと思う。

(宮澤委員)

社会増減が増えているが、一時的な新型コロナウイルスの要因なのか、もしくは政策の効果なのか、役場はどう考えているか。また出生数が大幅に減っている要因も教えていただきたい。人口が減っているが、世帯数が増えている理由は単身者世帯が増えているのが原因か。その場合、結婚対策がうまくいっていないのではないか。また評価指標のBとCの違いがわからない。

(鈴木課長)

出生数が減った原因ははっきりとわからない状況である。コロナの影響もあったかもしれないが、今年度については40人～50人前後になると予想されている。出生数を確保するために結婚対策や子育て支援が必要となってくる。子育て環境については今後もより充実した環境を作っていく。清水中央公園と御影公園に遊具の設置を進めているが、子どもの遊び場の確保も含めて子育てを考えていきたいと思う。転入・転出については、外国人の異動も減っているため、コロナの影響は十分に考えられる。世帯数については、単身者世帯が増えているだけでなく、世帯分離が進んでいることが大きな要因かと思っている。評価については、役場職員目線での評価となっており、町民がこれまでの経過を判断しにくいものとなっているため、反省すべき点である。2期目については皆さんの意見を踏まえながら、どのような評価をしていくか考えていきたいと思う。

(上谷委員)

結婚に関しては男子図鑑等にも参加をしたことがあるが、実績に結び付けるのは難しいと

感じた。一番簡単なことは子育て世代に転入してもらうことだと思う。清水町は他町村と比べて、様々な支援があり子育てしやすいと思っている。移住促進についても、東京・札幌ではなく、帯広市の子育て世帯をターゲットに子育ての優位性などを前面にアピールをすることで、清水町に興味をもってもらえるのではないかと思う。もっと横の連携を強化し、町民を巻き込んで取り組んでほしい。困りごとを他の課や町民に相談しながら解決につなげてほしい。

(鈴木課長)

昔よりは縦割り行政が改善されてきていると思うが、まだまだ改善の余地はあるため、さらに横の連携を強化し、場合によっては町民からの意見をいただくことも大切だと思う。待っているだけではなく、役場から話を聞きに行くことも考えなければならない。今年度から集落支援員という高齢者の困りごと相談のための職員も配置しているため、積極的に話を聞く形にしていきたいと思う。子育て支援についても町長が一番自負しているところであるため、もっとアピールをすることで転入につなげていきたい。また帯広市の通勤圏であるため、この立地条件も含めてPRしていければと思っている。

(丸山会長)

出生数について危機感を感じる。子育て対策は町として十分にやっていると思うが、さらに対策を行う余力はあるのか。御影地区の人口の減少が大きい、なにか原因はあるのか。

(鈴木課長)

子育て支援策については、医療面や教育面など可能な限り取り組んでいると思う。将来的な不安から子どもを産む勇気がない家庭もあると思う。これらの家庭への支援が難しいところである。みなさまの意見を聞きながら、効果的な支援を考えていきたいと思う。御影地区の人口減少については、正確な部分についてはわからない。御影地区は清水地区より宅地やアパートが少ないなど住宅環境に問題があると思う。御影地区の住宅政策に力を入れていきたいと考えている。

(滝下係長)

国勢調査の速報値で十勝全体では1万人くらいの減少となっている。道内では十勝が一番人口減少率の低い地域である。原因としては、十勝の安定した1次産業が背景にあると振興局では捉えている。有効求人倍率についても、コロナ禍で全国的に下がっていく中で、十勝はそこまで下がらずに、5月では若干ポイントが上がっている。求人という面では安定を続けている地域である。若年層の流出や転出したあと戻ってくる若者が少ないことが課題であると感じている。高校卒業後、十勝を出ていくことは仕方がないと捉えているが、社会に出た後、地元に戻ってくる人を増やすことが大事だと思う。最近では十勝教育局とも連携を始め、

学校教育の中で地域の良さを伝えていくことや一緒にまちづくりをする機会を作ることで、地元愛の定着させていきたい。未来への投資となるが、地元へ戻ってくるきっかけになるのではないかと考えている。これまでは直接的に地域に来てくれる人口を増やす政策を行っていたが、遠く離れていても、地域のファンを増やす取組みを進めることで、持続可能な地域としていくことも重要としている。また、道立高校と連携して新たな企業実習制度ができないか検討をしている。普通科高校においては、社会で働く自分を考える機会が少ないため、高校の授業の中で長い期間地元企業に行くことで、働く自分を想像する機会を作れるようにと考えている。清水町にも高校があるため、導入をお願いするかもしれない。実施の際には地域の協力が不可欠となるため、ご協力をいただければと思う。

(丹羽支局長)

出生率を上げることが長い目で見た時の人口対策になる。しかし当面は転入に頼るしかない。清水町は子育て支援が充実していることは認識しているが、実際にいくらお得になるのか数字を示さなければ伝わらないのではないかと。土地代も含めるとかなりの額の差が生まれると思う。帯広市の移住パンフレットにも、東京都と比べたときにどのくらいの金額に差があるのか記載している。わかりやすくPRしていくことも必要ではないかと思う。

(丸山会長)

色々のご意見をいただきましたが、答申についてはどのようにいたしましょうか？

(川口補佐)

答申につきましては、皆様方からご意見のあった会議録を付して答申とさせていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

(丸山会長)

それでは、本日の審議会の意見については、後日会議録を全員に送付し、内容を確認いただいた後、その会議録と併せて正式な答申を町長に提出することとします。

委員長から町長への答申書は、後日事務局より提出してもらうこととします。

7. その他

(丸山会長)

事務局よりその他、何かありますか？

(川口補佐)

本日いただいた皆様からのご意見を率直に受け止め、役場全体で協議し今後の人口減少対策につなげて参りたいと思います。

また、7月19日から順次、各団体との懇談を予定していますのでお伝えさせていただきます。

8. 閉 会

(鈴木課長)

閉会にあたりまして、丸山会長よりご挨拶をいただきまして、本日の総合計画審議会を終了させていただきます。丸山会長お願いいたします。

(丸山会長)

本日いただいた委員の皆さん、そしてアドバイザーの皆様からの貴重なご意見は、様々な形でまちづくりに反映していただければと思います。

本日は長時間にわたり、ご審議いただきましてありがとうございました。